就実大学・就実短期大学図書館報

共翔

第19号

目 次

［巻頭詩］きみが覚悟やいかに？（Are You Ready？） 押谷 善一郎 …… 2

［essay］実になるお米の話 中西 徹 …… 4

［スタッフのおススメ本］…… 7

［私のe-book活用法］図書館における電子書籍（e-book）の利便性と将来性を考える。 渡辺 浩 …… 9

［私のe-book活用法］全ての教科書が電子化されれば… 工藤 季之 ……11

［教育学部スタート！］就実大学教育学部の紹介 北川 歳昭 ……12

［教育学部スタート！］教育心理学科における学士力養成と支援の仕組み 堤 幸一 ……14

［essay］文学的な人生について 小林 敦子 ……16

［図書館と私］上松 侑加／岸下 美紅 ……18

［図書館の愉しみ］図書館利用と読書力 松﨑 博子 ……20

［学生のブックガイド］冨田 綾香／今田 結衣 ……22

［図書館マナー］一緒に快適空間を作ろう ……24

Are You Ready?

Zen'ichiro Oshitani

You might see a light of truth
Yonder on a rainbow in the sky.
You touch the hem of its beautiful garment
To find it only to be a shadow.
Your efforts will often, thus, go for naught.
It's your strength of will that will help
You not succumb to such severe situation.

You might see a flower garden
Yonder on a rocky mighty mountain.
You struggle up to it through a treacherous pass
To find it only to be an illusion.
Your dreams will often, thus, be shattered to pieces.
It's your enthusiasm for learning that will help
You not surrender to such severe scene.

You might see a ball of gold in the sand
Yonder on a white seashore.
You rush for it on the sandy shore
To find it only to be a phantom.
Your expectations will often, thus, lead to no result.
It's your passion for knowledge that will help
You not submit to such severe strait.

Are you ready ?

きみが覚悟やいかに？

学長　押谷 善一郎

空のかなたの虹の上（え）に
　真理の光と見しものは、
ただ幻想に過ぎぬと見たり、
　その美しき衣装に触れんとすれば。
きみが努力はかく水泡に帰すこと多し。
　かくも厳しき状況に屈せざるは
きみが勁（つよ）き意志あればなり。

巨きな山の岩群れに
　花の園と見しものは、
ただ幻影に過ぎぬと見たり、
　危なき路を登りてゆけば。
きみが夢はかく砕け散ること多し。
　かくも厳しき光景に屈せざるは
きみが崇（たか）き学の志あればなり。

海辺のかなたの白砂に
　黄金の球と見しものは、
ただ幻像に過ぎぬと見たり、
　砂上を走りて近づきゆけば。
きみが期待はかく裏切らるること多し。
　かくも厳しき苦境に屈せざるは
きみが熱き知への情熱あればなり。

きみが覚悟やいかに？

実になるお米の話

薬学部薬学科　教授　中西 徹

お米は私たち日本人の食生活における主食であるばかりでなく、その生活の一部といってもいいくらいに重要なものである。土地の価値を米の生産量で表す石高は古くは豊臣政権以降、明治時代まで用いられてきたし、「物価の王様」と言われる米価は、現代に至るまで、庶民の生活を左右して、その安定は時の政府の重要案件であった。時には米の価格を吊り上げる悪徳商人が現れて庶民の生活を脅かすこともあり、大岡忠相が、自分の地位をかけてまで守ろうとしたのが、商人によって吊り上げられた米の相場の安定であったことはよく知られている。

この米を中心とする日本の食文化はいつごろから定着してきたものなのだろう。弥生人は農耕を中心とする文化を持って日本に渡来したが、稲作自体はもっと早くから日本で行われていた。縄文時代から陸稲を中心とする稲作が既に行われていたことは縄文時代の地層から出土するプラント・オパール（イネの葉の細胞成分）からも確認されている。実は、岡山近辺にはプラント・オパールが出土する縄文遺跡が多く知られており（南溝手遺跡など）、研究の結果、岡山地域は、縄文時代における有明海を中心とする北九州地域と並ぶ日本の二大稲作地の一つであったことがわかっている。岡山がなぜこれほどの稲作の中心地だったのかについては諸説あるが、現在と同様に温暖で気候が安定しており、災害が少ないことはその大きな要因であると思われる。また、当時栽培されていたジャパニカ（熱帯ジャポニカ）米の原産地が中国南部（長江下流域）で、その土地柄や気候が岡山と似ていたため、米を持った渡来人が岡山に定着したとする説もある。一方、水稲の歴史は、古くは紀元前7000年頃までさかのぼることができる。最初の稲作は中国の中部から始まり、そこから約4000年かけて黄河や長江の流域に広がっていった。日本に水稲が伝わったのは紀元前500-1000年の縄文晩期から弥生前期と考えられているので、これはかなり遅い部類に属することになる。

私たちは米というと普段食べている無色の米が主流であると考えてしまうが、玄米の表面に赤や黒、紫といった色がついた有色米も多い。日本人も明治以前は赤米を多く食べていたが、これらは明治時代に無色の米に駆逐された。先日もベトナムの米文化を紹介するテレビ番組を見ていて、ベトナムの米屋の店頭に並んで

いる有色米のバラエティーの多さに驚かされた。これらの細長い有色米は特にアジアの南方に多く、インディカと呼ばれる種類である。これに比べて、北方の米はジャポニカと呼ばれ、私たちが食べているコシヒカリ、日本晴といった日本の米はこのジャポニカ種である。縄文時代の陸稲であるジャパニカ種は南方から渡来したと考えられているが、弥生時代の水稲であるジャポニカ種は北方から朝鮮半島を経由して渡来したという説が主流である。その後、中世になって再び南方からインディカ種である大唐米が大量にもたらされて、その収穫量の高さから庶民の食用として広く日本に広まった。

お米にはもち米とうるち米があるが、うるち米は私たちが普段ご飯で食べているお米である。化学的にはこのもちとうるちの差は米に含まれる糖分の違いによる。米に含まれるアミロースとアミロペクチンという二種類の糖のうち、直鎖状のアミロースを全く含まないものがもち米である。うるち米ともち米の区別はヨウ素ヨードカリ染色で行い、アミロースを含むうるち米はこの反応で紫色に染まる。このアミロース含量が多くなると、お米はパサパサ傾向が増していき、南方系のインディカ米ではこの含量が25%前後に達するため、とてもパサパサしてあまり我々にはおいしいとは思えない。私たちが普段食べているジャポニカ米のアミロース含量は18%前後で、適度にねばねばして甘みがあり、炊くと一番おいしいお米である。日本の米は海外でもおいしい米として知られていて、中国やタイなどで、高級米として高価で取引されている。

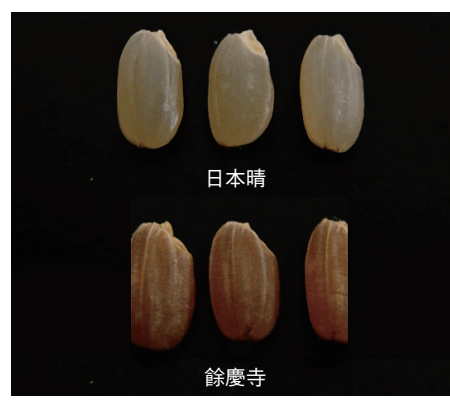
さて、植物としてのイネに、近年の分子生物学の進歩によってゲノム解析の光が当たることになった。イネには12本の染色体があり、それぞれにヒトと同じように短い繰り返し配列（SSR）があって、この繰り返し回数が品種に特有であることからイネの品種の照合に用いられている（ヒトでは個人鑑定にこの繰り返し配列が用いられる）。さらにイネには脱粒性という性質があり、籾が穂にひっついているかはずれて下に落ちるかという違いを生じている。紅葉で葉が落ちるのも脱粒層が形成されるからである。普通私たちが見る栽培種では籾は穂についていて脱粒性はない。しかし野生種は脱粒性を有していて籾が地面に落ちてしまいこれを収穫するので効率が悪い。この違いはqSH1遺伝子上の一か所のDNA塩基配列の違いに起因することが知られている（グアニンがチミンになると脱粒性がなくなる）。

今回、瀬戸内市邑久町にある餘慶寺の千手観音の胎内から発見

された寛永２年（1625年）に収穫されたと考えられる米（餘慶寺および千手観音の成立や納入品発見の経緯については表現文化学科 土井通弘教授の「瀬戸内市餘慶寺蔵千手観音立像について」就実表現文化第五号を参照）について上記の性質をDNAレベルで解析したところ、当時の庶民が食していた細長い大唐米とは異なり、赤米ではあるがジャポニカ種のうるち米で、脱粒性のない栽培種であり、上記の繰り返し回数も含めて現在私たちが食べている日本晴に近い品種であることが判明した。ただ、残念ながら、保存状態はよいものの常温で長期に胎内に封入されていたため、この米のDNAの分解は相当に進んでいて、この米からもとのイネを再生することはできていない。DNAデータからの想像では、いわば当時の高級米とも考えられるこの餘慶寺米について、現在、さらに最先端のDNA塩基配列解析装置である次世代シークエンサーSOLiD4を用いて、その約４億個の全塩基配列をすべて解読する試みが進行中である（愛知県岡崎市 基礎生物学研究所との共同研究）。次世代シークエンサーは従来10年近くかかった億単位の塩基配列決定を約1000倍速める（すなわち数日で決定できる）ことに成功した驚異のスーパーマシンである。現在解読されつつあるこの餘慶寺米DNAの全塩基配列解読結果は、私たちが食べている日本晴と江戸時代の高級米の遺伝子の違いを明らかにして、餘慶寺米を再生、収穫して実際に食べることをも可能にしてくれるであろう。わずかな時間で全ての塩基配列を知り尽くすことを可能にしたスーパーマシンがもたらしてくれる大いなるロマンは、私たちに次の言葉を思い起こさせる。

―ああ、私の魂よ、不死の生に憧れてはならぬ。可能なものの領域を汲みつくせ。―

　ピンダロス「ピュティアの祝捷歌第三」



『しあわせ読書のすすめ』

清水克衛　著

一冊の本との出会いで人生が変わるかもしれません。この本はそんなきっかけを与えてくれる紹介本です。「就活に疲れてしまった」「将来が不安」「恋愛が長続きしない」など、誰もが抱える悩みに応じて、とっておきの本がセレクトされています。この本を読めば、きっと新しい世界観が見えてくるはず。みなさんも、毎日が楽しくなる「しあわせ読書」を体験してみてはいかがですか？

（ありがとウサギ）

『沈黙の春』レイチェル・カーソン　著

青樹築一　訳

アメリカの海洋学者で作家でもあった一人の女性が公害、そして環境問題を提議した本です。現在では広く浸透していますが出版当時は環境問題そのものが議論になったそうです。1962年のアメリカで書かれているので古典的な内容ですが、今私たちが住んでいる日本も地球の一部なのだと思い知らされます。環境問題は大変難しい問題ですが、小さい事から自分に今出来ることをしていきませんか。

（ねみちゃん）

『大局観：自分と闘って負けない心』

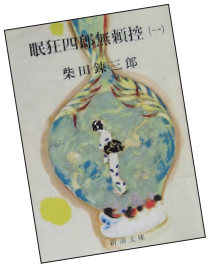
羽生善治　著

この本は、著者が大記録を賭けた対局で記録的な大敗を喫したのちに記されたものです。将棋における「大局観」という感性を中心に取り上げながら著者の経験、人との出会いなどを織り交ぜて自分に負けない心を養うヒントが記してあります。多くの経験から生まれた著者の提言は非常に興味深い上に、文章中に垣間見える将棋界の厳しさやその世界に生きる著者の静かな情熱がとても刺激的でした。人生を見つめ直したくなる一冊です。

（596-3　ごくろーさん）

『眠狂四郎シリーズ』

柴田錬三郎　著



眠狂四郎は、昔から映画・ＴＶで市川雷蔵、田村正和、片岡孝夫（現仁左衛門）など、細身のイケメン俳優が演じてきた。狂四郎は孤独で冷淡、容赦なく人を斬る。にもかかわらず、“円月殺法”の回転する刀とその立ち姿が一体化する時、狂四郎を通り過ぎる女性たちは必ず惚れてしまうのだ。読者諸氏のお好みの俳優さんが演じるとしたら…。イメージをふくらませながら読んでください。

（ニンニン忍者）

『ワクワクするほど面白い世界の神話』

歴史の謎研究会編

神話について皆さんは興味ありますか。

神話はどの国にもあたりまえのようにある伝承ですが、この本はそんな神話の入門書といったところです。

ギリシャ神話、インドの神話まで紹介されています。

そして、日本の神話についてもわかりやすく解説してくれています。

神話って興味あるけどなんだか難しそうで手が出しにくいという人、どの国の神話の本を読んでみようか悩んでいる方にお勧めします。

また、この本ではマヤ・アステカ神話についても紹介されているページがあります。

今話題になっている2012年問題はマヤの暦が2012で終わっており、2012年に世界に何か起こるといわれています。

実際何が起こるかはわかりませんが、高度な天文知識を持っていた彼らが何を信仰していたのかを2011年内に知っておくのもいいかもしれません。

マヤの民が信仰していた神々を読み解くことで彼らが何を考えていたのか、きっと見えてくるものがあると思います。

世界中の神話を比較して、それぞれの考え方や特色の違いを楽しんでみてください。

神話は国によって神や神の世界についてのとらえ方が全然違いますよ。

神様って万能の存在じゃないの…と考えている方は衝撃を受けるかもしれません。

（なつにや　きにく）

『シーシュポスの神話』

カミュ　著

神々がシーシュポスに科した刑罰、それは何度も大岩を山頂に運ぶ、という無益で希望のない労働だった。

カミュといえば“不条理の哲学”。今、巷ではニーチェの哲学を漫画にしてわかりやすく解説している本が売れている。カミュの解説本も是非ほしいものだ。文庫本にしてたった６ページであるが、難解きわまりない。しかし長く仕事をしていると“不条理”って何となくわかる部分もあるんだな。一度手に取ってみてください。“不条理”に出会えます。

（ニンニン忍者）

『のぼうの城』

和田竜　著

豊臣秀吉の北条氏討伐で、石田三成率いる十倍の敵に、攻められても水攻めにされても持ち堪え一月以上も籠城し、唯一合戦で落ちなかった忍城（おしじょう）の戦いのお話です。歴史小説にあまり馴染みのない人にも読みやすく書かれており、歴史小説入門編としてはベストではないかと思います。史実を基にしているので、読後に関連事項をいろいろと調べてみるのもきっと楽しいと思いますよ。

（こゆきりん）

図書館における電子書籍（e-book）の利便性と将来性を考える。

人文科学部実践英語学科　教授　渡辺 浩

電子書籍にも様々なメーカーと形式が存在するが、本稿に於いては電子書籍に関する利便性と将来性について考察したい。本学にもCengage LearningのGVRV（Gale Virtual Reference Library）が導入されて二年ほどの月日が経過した。そのタイトル内容は現在のところ全て歴史関係の百科事典に属するものである。しかし名称にもあるとおり電子書籍の強みはレファレンスの為の利便性にあると考えられる。

他大学などのe-bookに関する意見も含め、その利便性を分析してみると、図書館の運営上の視点から考えるならば、

1．一度にレファレンスが重なる場合でもe-bookの場合は問題なく参照できる。
2．辞典類に関しては複数のセットを用意しなくても済む。
3．スペースが大幅に節約できる。

また利用者側からの視点で分析すると、

1．学内の端末からいつでもアクセスできる。
2．レファレンスが紙媒体の資料より楽に短時間にできる。
3．すぐに必要な部分をプリント・アウトが可能である。
4．しっかりとした資料に基づくデータであるので信頼がおける。

以上様々な利点があげられる。

また必要に応じて翻訳機能を利用すれば、今までアクセスしづらい資料でも手軽に参照でき、また多少複雑な内容の洋書などでも、学生の立場からも利用しやすくなると考えられる。

さらに応用的な利用方法としては、教材や論文の作成にも効果が期待できる。ウィキペディアなどでは信頼性が期待しにくい場合でも、定評のある文献に基づく資料ならば安心して利用できることが強みである。辞典類ならば最新の改訂版などを素早く検索し、写真や解説図なども必要に応じて利用しながら必要な教材を作成し、すぐにプリント・アウトして配布することも可能となる。また端末でレファレンスをさせながら授業を進めることも可能である。論文の引用に関してもMLA方式の引用明示が可能な機能もあるので、分野によっては非常に便利なツールともなりうる。

以上様々な利便性についての紹介を行ったが、デメリットと考えられる点もある。一つは通信システムを通じての検索ということになるので、場合によっては通信がうまくいかない場合や、何らかの理由により機能不全が生じることもありうる。この点はメインテナンスのサービスとして業者とよく連絡を取りながら、機能上の支障が生じた場合は常に原因究明を行い、常に機能向上の留意を行うとともに、業者に対して機能不全根絶のサービス向上を要望してゆかなくてはならない。またe-bookに関しては使用上の機能を熟知していなくては効果も半減してしまう。そこで教職員また学生を対象とした説明会等を開催して検索

方法や利用方法を周知してゆく活動が必要であろう。

さらにe-bookを取り囲む環境も年々変化が激しくなってきている。個人向けの電子書籍の配給はその質・量ともに大きく向上しつつあり、今後図書館や公的機関向けのe-bookもどのように劇的な変化を遂げてゆくか予想を超える部分もある。Googleなどは、AppleやAmazonなどにも比べても膨大な冊数の電子書籍の販売などを計画し日本での公開を予定しているとも伝えられ、今後著作権などの問題等、クリアしなくてはならない問題も多いと考えられるが、利便性の向上とともに利用者数や利用率も向上してくる見込みは高い。しかし各メーカーにより、リーダーのシステムも異なり、日本における端末の機能についても、どのソフトを利用できるかという機能も異なる点もあるので、現在のコンピューターと同じような互換性を獲得することができるかどうかは未知数の部分がある。

しかし現在またこれから出版される書籍の紹介の他に、過去のデータや書籍を保存し、場合によってはオン・デマンド印刷のようなサービスを提供する電子書籍やメーカーなども登場しつつある。また電子書籍のPHDファイル化されているようなサービスをもつものは、紙媒体の形式をそのままプリント・アウトできる場合もあり、過去のデータを機能的に保存し、また検索利用可能な状況を提供できる。こうしたことはマイクロフィルムで膨大なデータを保存している状況に比べ、大幅に利便性や検索の機能を向上させる可能性が高い。

まだまだこれからの各メーカーや出版業界の環境整備等が必要な部分があり、法制度等の見直しや改革により、電子書籍の汎用性がどのように展開してゆくかはっきりと予想できない点も多々ある。しかし以上のような利便性や効率を考えると、今後の発展は大いに期待できるものがある。

図書館のような公的施設向けの電子書籍は個人向けの電子書籍以上にデータや検索機能という点を求められる性質が高いと考えられる。そうした意味で、今後様々なメーカーのサービス内容やシステムの充実度を見極め、また多くの利用者の要望を考慮しながら、どのような方向性が最も将来の電子書籍の力を利用できるかを考察してゆくことが、これから情報の有効利用と情報を上手に活用した教育に寄与するものとなるであろう。

全ての教科書が電子化されれば…

薬学部薬学科　准教授　工藤 季之

かれこれ四半世紀になるAppleマニアの私は、iPadが発売されると程なく入手した。もちろん、iPad2も日本で発売が解禁された深夜にオンライン購入。海外から個人輸入するほどではないので、マニアといってもほどほど。バリバリ使いこなすというのにもほど遠い。大学の教員、特に研究室での実験が多い研究者というのは、どちらかというと外に出歩く機会は少ない。モバイル機器の活躍する場面は少ないし、外に出ているときは、むしろiPhoneの独壇場だ。ところがほどほどに屋内をうろつく人間には、iPadというのが実にちょうど良い。

研究というのは、簡単にいうと既知の情報に新たな情報を付け加えることだ。研究の第一歩は既知の情報をしっかりと収集し、吸収すること。そのためには、膨大な文献を探索し、論文を読み込むことが重要だ。科学論文は、学術雑誌（ジャーナル）というものに掲載されるが、いまや電子ジャーナルが当たり前。インターネットに繋がるコンピュータがあれば、100年以上前の論文でさえ、クリック一つで手に入る。ちょっと前までは、図書館にこもって文献を探し、論文コピーを山ほど抱えるというのが普通だった。ここ数年で、論文はPDFファイルとしてパソコンのハードディスクに保存するものに変わった。

電子化された論文というのは便利なようでそうでもない。パソコンの画面で長文を読むのはかなり苦痛で、気軽に読むにはプリンターで印刷したほうが良い。かといって、いちいち印刷するのも地球に優しくない。そこでiPadの登場だ。必要な論文のファイルを全部iPadに放り込めば、いつでもどこにでも持って行って、気楽に目を通せる。指先一つでアンダーラインも引けるし、書き込みもできる。小さくて読みにくければ、すぐに拡大。わからない単語があれば、辞書アプリで調べたり、インターネットで検索したり。こんな便利なことはない。

一方で、電子雑誌を除く電子書籍には今一つ快適さがない。電子化して利便性のある書籍が電子化されていないからだ。大学で使用される教科書はその筆頭だろう。分厚くて重い教科書はそれだけで学習の利便性を損ねている。書籍を自分で電子化する行為を「自炊」という。私も教科書を一冊自炊してみたが、あっという間にできてしまった。もちろんたった一冊なら本のほうが軽いので利便性が高まるわけではない。全ての教科書が電子化されて提供されれば、iPad一つで今いる場所が勉強部屋に変わるのに。

就実大学教育学部の紹介

教育学部長　北川 歳昭

就実大学に第３の学部、教育学部が本年４月に開設されました。『共翔』の誌面をお借りして本教育学部の特質と内容を紹介させていただきます。

教育学部がその基礎をおく教育学とは、教育を総合的に研究する学問分野と定義されます。教育学の分野は、教育哲学や教育心理学などの基礎理論から、教育方法論や教育課程論、教育工学などの教育の方法・技術、学校経営や教育相談などの教育の実践、国語科教育や道徳教育などの教科別教育、初等教育・中等教育・高等教育といった対象の段階別教育など、広範囲にわたっており、その内容は学際的です。

教育学部は、教育学の教育研究と教員養成を目的とする学部ですが、もっぱら教育学の基礎的な教育研究を目的とする教育学系教育学部と、教育学を学校教育に応用した教員養成を主目的とする教員養成系教育学部に大別できます。本学教育学部は、教員養成系教育学部です。

教員養成には、認定を受けた教育課程（教職課程）を置かなければなりません。教職課程には、教育の内容を学ぶ「教科に関する科目」と、教育の目的・方法・対象理解・実践を学ぶ「教職に関する科目」とがあり、それぞれ所定の単位を修得することで教員免許状が取得できます。

求められる教員の資質能力について、文部科学省は、教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、これらに基づく実践的指導力を挙げています（中央教育審議会答申）。

ここから、教育には、教科等の専門知識、広い視野や教養、実践力に基づく教科指導といった学習指導の側面と、教育的愛情や人間性、発達理解や対人援助の専門知識・技術に基づく子ども支援の側面とがあり、その両面の資質能力が教員に求められていることがわかります。前者は、いわば子どもの知性を刺激し学力を向上させる「教え導く」側面であり、後者は、子どもの心身発達や健康を維持向上させる「支えケアする」側面とまとめることができるでしょう。

さて、いま学校教育にあっては、不登校、いじめ、学力格差の広がり、学級崩壊、発達障害、教師の疲弊などの問題、家庭教育にあっては、育児不安、児童虐待、子どもの自殺、非行の問題など、上記の教育機能の二側面、とりわけ「支えケアする」側面の重要性を意識せざるを得ない深刻な状況にあります。

支えケアする教育の側面について、文科省は、学校教育職員の中で養護教諭に注目し、今後の養護教諭に求められる能力として、学校における看護能力、カウンセリング能力、情報収集・処理・発信能力、教育力・指導力、企画力・実行力、連携能力・調整能力、研究能力、の７項目を挙げています（保健体育審議会答申）。支えケアする教育の担い手としての養護教諭への期待の大きさと、心理学的知識・技能の教育への導入の必要性の指摘を窺い知ることができます。

就実大学教育学部は、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の養成課程を置く初等教育学科と、認定心理士、養護教諭、中高教諭（保健科）、特別支援学校教諭の養成課程を置く教育心理学科からなります。初等教育学科は、教科・保育内容に関する科目を充実させており、「教え導く」側面に力点を置く学科と特徴づけられます。一方、新設の教育心理学科は、養護教諭と特別支援教諭の養成課程をもつ心理系学科という、全国的にも珍しい学科です。教員養成系心理学科ですから発達心理や臨床心理が厚く、カウンセリングマインドや心理臨床技能を十分身につけることができます。「心理学と特別支援教育にも強い養護教諭の養成」がこの学科のキャッチフレーズの１つです。教育心理学科は、教育の「支えケアする」側面に力点を置く学科と特徴づけることができます。

かくして就実大学教育学部の最大の特徴は、目的・内容の異なる初等教育学科と教育心理学科の二学科が他学科受講等で相互補完的に連携を強め、学生たちが教育機能の「教え導く」側面と「支えケアする」側面を十分に学ぶことができることです。教員間でも両学科間の交流と連携により共同研究が推進され、今日の困難な教育課題の解決に積極的に取り組むことのできる教員養成と教育研究の体制が構築できると確信しています。

就実大学教育学部の教育上の目的は、「去華就実」の教育理念を具現する教育的人材の育成です。外面的華美に走らず、人間性の豊かさに価値を置き、内面の充実に努める、そのような人材、そのような価値観をもって教育にあたる人材を育成します。

就実大学教育学部の課題は、目標とする人材養成を実際に成し遂げることです。学内外からの期待に応えられるよう、教育学部の教員は、いま、学生とともに新しい学部の伝統づくりに燃えています。４年後、教育学部一期生たちが母校での学びに満足し、教員としての資質能力を十分身につけ、胸を張って教育現場に共に飛び立ってくれることを願っています。

教育心理学科における学士力養成と支援の仕組み

教育学部　教育心理学科長　堤 幸一

本学科の特徴・コンセプトに関しての小文を書いて欲しいとの依頼を受けた。専門科目の構成や教職科目との連携などは、本学科独自のものというより教育学部としての特徴・コンセプトなので、学部長の原稿と重複する部分が出てくると思われるために本稿からは割愛させてもらい、ここでは主に本学科の基礎教育目標とそれを支援する仕組みについて述べることとする。

■本学科の基礎教育目標「学士力」養成とその支援の仕組み

昨今は「学士力」の養成と保証が頻繁に取り上げられているが、本学科でも個別の教育目標の基盤として、この学士力養成を位置づけており、特に技能（コミュニケーション能力・情報活用力・論理的思考力）および態度としての生涯学習力、それらを統合して活用する創造的思考力を重視している。そしてこれらの学士力の養成・向上を支援する仕組みの１つとして、学習ポートフォリオを導入した。

学習ポートフォリオとは何かについて、少々説明しよう。ポートフォリオは、元々書類などを入れておくフォルダ（紙ばさみ）のことであるが、教育分野では、個人が行った様々な活動の記録およびそれへの自他の評価を系統的にたばねたものを指すことが多い。単なる記録集ではなく、自他評価を含むところが重要である。

教育は学習の連鎖であるが、学んだことを本当に本人のものとするためには、記憶し、実践しただけでは、実は不十分である。適切に記憶できているか、真に理解しているか、実践において、実行できただけでなく、その後改善を示しているか、自分自身で改善策を考えて実際に試みているか、など不断の評価を行い、それをフィードバックすることが必要である。

これまでの教育は、これらのフィードバックは、教授者から学習者へトップダウン式に与えられるだけであったが、これと相補的に学習者が自ら自己評価を行い、最も重要な気づきを自主的に得るという学習側の活動が教育には必要不可欠なのである。そしてこれらのフィードバックを繰り返していくことが真の学びとなる。学習ポートフォリオはこの過程を活動の記録、自他評価を蓄積して、これらのくり返しの中から、さらに横断的・縦断的に、より広く高次の気づきを得させるための仕組みであるといえる。

■本学科の学習ポートフォリオシステムと目的

次にもう少し具体的に本学科が導入したポートフォリオについて目的と関連づけて触れよう。

まず学生支援用メンバー制サイトEpsqをインターネット上に立ち上げた。ここには、学生への告知、質疑の出来る掲示板やクラス、委員会活動の記録や質疑ができる仕組みを用意している。そしてe-Pf（電子ポートフォリオシステム）として、各学生個人用のポートフォリオスペースを設けてある。また課題提起や解説も、付属させ

た掲示板で行っている。なお課題を周知するために、ブラックボードにも支援コースを作成して、学生への一斉メールなどは、ここを経由して行っている。

利用方法だが、学生達には、携帯電話やPCからこのサイトを１日１回は確認するように指導している。そしてメールや掲示板で課題提出が求められたら、締切期日までにEpsqへアクセスして、課題に直接答えたり、紙ベースで出題された課題への回答要旨を個人のポートフォリオ内へ転記したりすることになる。また課題によっては、他の学生の課題回答へコメントを残す、あるいはそのコメントへ回答学生がリプレイすることも課題に含めることがある。これらは学士力の技能項目を訓練することに当たるだろう。さらにこれらのやりとりも含めて、自分なりの総括を課題の到達点として求めることもある。これに答えていくことは、学士力の創造的思考力を向上させることに当たるだろう。そしてこれらすべてを通じて、自分自身の気づきを明確に意識させることで、内発的動機づけへ働きかけ、学士力の態度項目（生涯学習力）も定着させることを目指しているのである。

最後に課題内容だが、現段階では、入学時・研修旅行などのイベントごと、必修科目の初年次教育での課題として提起されている。今後は、４年間を見通した関連科目の教育内容（例えば、教育実習ノートや提出物）との連携を図り、学生が個々ばらばらの科目での学びではなく、系統的な学びとして、自分自身の学習成果を位置づけられるように、計画・配置していく予定である。４年後に、学生達が自分のポートフォリオを「自分の成長した記録」およびその具体的内容証明としての意味に気づき、さらに社会人となった後も、同様の活動を継続していけることを期待している。学士力はそれを得ることが目的なのではなく、得たそれらを活用して自己教育を継続していくことこそが目的なのである。

文学的な人生について

人文科学部　表現文化学科　講師　小林 敦子

文学的な人生、というものがあります。小説のような人生。激しい出来事のおとずれの中を生き抜いた人の歩みをそう言うようにも思います。戦争があり、貧しさがあり、栄華があり、時として、恐ろしいほど大きく人の運命をあずかり、人を傷つけ喜ばせ、ふりかえれば幸福か不幸か、天秤にかけてもよくわからない、一幕の流転の劇を見るような激しさに、私たちは文学的、という言葉を添えたくなるようです。

私たちの人生は文学的でしょうか。じっさい激しい時代かもしれません。このわずかの間にも、いくつかの大きな崩れを見たと感じている人も多いでしょう。私たちを取り巻くものの激しさは、徐々に増してゆくのかもしれません。

けれど静かな、激しさの少ない人生というものも、また必ずあり、時代の変転の中で変わらずつづいていくようです。静かな、平穏な一日一日のつみかさねが人生になっている。私たちのほとんどが、そちらの生のようです。

静かと書きましたが、どんな人でも自分の生には必死の思いで向き合っており、自分の気持ちでは、平穏な歩みと感じる人は稀でしょう。でも、多くの人は控えめで、文学的な人生とは言いません。一幕の劇のようでもなく、小説のようでもなく、ただ生活を大切にしてきた、と。私は、それも文学的な人生と呼びます。

昭和の作家高見順は、生は文学であり、文学は生であるということを言います。作家らしい信条のように思われます。しかし高見は決して作家だけのことではないと言うのです。生とは生きることであって、人生であって、そして生活であると高見は書きます。小説を書き詩を書くことだけが文学ではない、自らの生を拡げ、充たしながら日々送ること、それも文学なのだと。

高見のそうした意識は、よくわかるようで、とても不思議なものです。何となくうなずけるものの、ただ日々生活をおくることを、文学的と呼んでいいか、やはり疑問に思うことでしょう。生の拡充、という、大正の思想家大杉栄の言葉を引きながら、高見は自らの生を大切にすることを説きます。自分の生は、誰もが大切にしたいと思っています。でもほんとうに大切にすることとは、どういうことなのか、たしかに言うのは難しいようです。一見悲劇にみえることが、その人の生のあり方に深く根ざした大切な瞬間となる時があります。そうした瞬間は、生というものが充たされているのかもしれません。生の充実とは、私たちが思い描く、喜びや悲しみの、さらに向こうがわにあるものなのでしょう。

日々生きる、平穏さも静けさも、おそらく同じことにつながっています。他の人には大きなことに思えない、ある瞬間が、とても大切な自らの生に関わっている、私たちはどこかでそのことをよく知っています。

静かな生ということを考えると、私は詩人のイェーツが、アイルランドの人々について語った言葉をいつも思い出します。

「そして心の静寂さのために、私たちは一時、より透明な、恐らくはより

激しい人生を生きることが出来るのである。」(井村君江訳「ケルトの薄明」)

それは幻想的な土地に生きる人々の不思議な感覚ですが、私たちも同じことなのかもしれません。静かな日々の中に、より激しい生がある。私たちは不意にそれに気がつき、知っていたと思い、時として言葉に残し、あるいは言葉にすることもなく、生を送る。文学というものは、おそらくそのあたりにあるようです。

私がこんなことを考えるのも、自分がちょうど少しだけ大きな変化をしたと思っているからかも知れません。文学というものに惹かれて、北海道に生まれた私は京都で大学生活を送り、この春に岡山まで来ました。ひとつの土地から離れてひとつの土地に行くのは、どこか長い旅にも似て、大きな変転のようにも思ってしまいます。岡山は私には新しく、鮮やかな土地でした。大きな嬉しさがあります。けれど海に近い、明るい光を遠く眺めながらあたりを見回せば、自分の生は依然として平穏であり、静けさのなかにいます。静けさのなかに激しさをみとめていくことが、これからも変わらず大切なことなのでしょう。

文学的な人生、というものは、小説的な人生とも言われたり、劇的な人生とも言われたりします。小説でも劇でもいいのです。ただそれが、ほんとうらしくないという意味でなら、決して使うべきではありません。高見順は、すべてほんとうのこととして、文学をとらえています。激しい出来事もほんとうなら、静けさの内にある激しさもすべてほんとうの人生です。私たちはどんな時に文学を書き、文学を生きるのか、私はこの場所で考えていきたいと思います。

高見　順

大杉　栄

図書館と私

人文科学部総合歴史学科　4年　上松 侑加

大学図書館と言うとどのようなイメージを持たれるでしょうか。高校までの学校図書館と比べ、難解な専門書ばかりの図書館というイメージの方が多いかと思います。しかし、本学図書館はちょっと違います。専門書・専門雑誌だけでなく一般書（本屋大賞受賞作品やドラマ・映画・アニメ化された作品の原作なども取りそろえています。）や絵本・紙芝居やファッション誌・一般雑誌・各種新聞等も扱っています。そして、書庫へは学生証なしで出入り自由なのはすばらしいことです。あと、メデイアルームでは勉強の息抜きにDVD鑑賞もできます。こうして説明してみると、イメージがだいぶ変わってくるのではないかと思います。

私の場合は各資格課程の課題・卒論や模擬授業の教材研究・指導案作成用の資料や息抜きの軽い読み物を借りたりして利用しています。また、気が向くと一人で書庫へ行って卒論に関係する文献を探すのも私の楽しみの一つです。（おもわぬ文献に巡り会うこともあり、なかなかに探しがいがあります。）あと、探している資料が本学にない場合は他大学等から取り寄せ等を行うことができますから職員の方にぜひ相談してみて下さい。

私は、以前から図書館で働きたいと思っていました。そして現在、私は週１回就実大学の図書館でアルバイトをさせて頂いています。業務内容は文献複写（ILL）、本の貸出・返却、新着本のカバー・ラベル貼り等をしています。一見、外からは簡単そうに見えますが慎重に行わなければならない仕事ではありますし、結構忙しくて大変ですが、この仕事を通して自分が知らなかった本の発見（新たな分野の開拓）があったり、カウンターに座っていると（様々な人が訪れる為）大学らしい人間ドラマに遭遇することもあったり、返却本点検していると稀に雑に扱われた本が帰ってくると残念な気持ちになることもありますが、とても学ぶこと（司書課程の座学では学べない部分）が多く楽しく仕事をさせて頂いています。そして、将来この経験をもとに人と本の適切な橋渡しができる司書になれたらと思います。

本学を含め大学図書館は私達の興味・目的に応じ、多様な顔で迎えてくれる場であり、学ぶ人の本質・追求する答えが学校図書館と異なるのだと思うのです。図書館の利用の仕方は人によって様々ですが、時間があるときは図書館を訪れ、館内を散策して自分なりの図書館の楽しみ方を探索してみてほしいです。

図書館と私

人文科学部実践英語学科　４年　岸下 美紅

就実大学の図書館でアルバイトを始めてから２年目になります。いくつか行なったアルバイトの中でも特に幸せな気持ちになれる仕事です。図書館でアルバイトをしていると利用していたときには気付かなかった発見がたくさんあります。

最大の発見は、図書館を利用する方々の好奇心や知的欲求を満たそうとする努力が予想以上に多いということです。例えば、毎月300冊前後の本を購入していることです。本屋大賞を受賞した本や、教員の方が執筆された本、また社会で話題になっている本も大学図書館で購入しています。特に本屋大賞は１位から10位まで全て、貸出中であっても本の表紙とあらすじが読めるように工夫されており、予約してでも借りたくなること請け合いです。

また、別の発見としては、他の図書館からの文献のコピー依頼が毎日平均５件～10件あることです。蔵書冊数の多い大学図書館であることを実感しました。文献をコピーする仕事は、コピー機の性能のよさに感動すると共に、自分だったら手に取ることのない文献に触れ、見出しを追う度に、読んでもいないのに、ちょっと博学になったような錯覚に陥ることができ、楽しい仕事です。また、重い本の割合も多いので、もれなく軽い筋トレができます。

ちなみに、皆さんは返却日が記された紙が手作業でスタンプされていたことをご存知でしたか？よく見れば確かにインクの濃淡もあり、手作業であることが分かるのですが、私は日付印を自分で押すまで、印刷機で刷られているとばかり思っていました。傾くことなく、インクがかすれることなく、上手に作られていた証拠です。私も、印刷機並みの美しい日付印を作るように心がけています。

興味のある本を探しに来たり、勉強する場として活用したりする以外にも図書館内を散策することをお勧めします。お目当ての本のある棚以外の本棚で足を止めてみることも、関心の幅を広げ、日々の生活を彩るきっかけになるかもしれません。

図書館利用と読書力

人文科学部総合歴史学科　講師　松﨑 博子

先日、初年次教育用テキスト『大学でのまなび入門』が就実大学から出版されました。わたしはそのなかで「情報探索の方法：図書館ネットワーク情報資源の使い方」について書かせていただきました。以下、そのテキストからの引用です。

授業の空き時間には就実大学・就実短期大学図書館へ是非行ってください。書架の間を歩きまわり、何となく手にした本を開いてみるとそこにはきっと思わぬ発見、幸運な発見（セレンディピティー）があります。

専門的に勉強される主題の書架へ入ったら、端から端までよく見てください。（本の背ラベルにある**請求記号**…表現文化学科の場合は9〇〇、実践英語学科は83〇、総合歴史学科は2〇〇です。初等教育学科と教育心理学科は37〇です。）みなさんがこれから４年間で習得する知識がそこにあります。

図書館を頻繁に訪れて書架の間を歩き回ると、ニーズ（潜在的な要求）に見合った本を発見する確率は高まるのでしょうか。

戸田・永田による図書館利用調査および相関分析の結果によれば、「利用頻度」と「利用により得たもの」との間には、そう強くはないが全般的な関連があるそうです。さらに複数の特定の「図書館利用」と特定の「利用により得たもの」との間には明確な関連があり、有意確率１％の水準で相関係数が0.5以上の組み合わせは次の３つでした。

- 「書架をぶらついて面白い本を探した」と「面白い本を読んだ充実感を得た」（0.583）
- 「授業とは関係ない読み物を借りた」と「面白い本を読んだ充実感を得た」（0.535）
- 「図書館の閲覧室を個人学習の場として利用した」と「学習する場所を得た」（0.555）

１番最初に挙げられているとおり、図書館の書架の間を歩き回る人は、ニーズに見合った面白い本にしばしばめぐり合えているようです。

本と出合うには条件があります。それは、本の内容を理解する力“読書力”を身につけていることです。もし本の内容を理解できなければ、字面を目で追ってみても面白いと感じることはありません。

この“読書力”も図書館利用を通して培いましょう。上の箇条書きで３番目に挙げられているように、図書館を“学習の場”として捉えられるのは正しいといえます。教室が授業のときに使用する一時的な居場所であるのに対して、図書館は自分の望む時間に使うことができますので、学生の学習の場として最適なのです。ここで注意したいのは、図書館は単なる自習室、個人作業の場所ではないということです。

近年、大学図書館業界においてインフォメーション・コモンズ／ラーニング・コモンズが大きな注目を集めています。インフォメーション・コモンズ／ラーニング・コモンズとは、学内に設置されたワークステーションで学生が研究やレポート・論文作成を行う機

会を提供し、レポート等の執筆支援（ライティング・センター）やコンピュータやネットワークの使用法に関する支援を与え、同時に数多くのデータベースや図書館のOPACの検索、ネットワーク情報資源の探索、そして研究ソフトウェアが活用できる場所を指します。

これを“情報リテラシー教育”を展開する場所と言い換えることができますが、この新しい取り組みの成功の鍵は‘人的資源’にあります。国内外の事例報告によれば、学内各部署の多様な人材に加え、訓練された学生チューターも支援者となる例が少なくありません。図書館は共に学ぶ場所なのですね。

米国大学図書館協会は“情報リテラシー”を次のように定義しています。「情報がいつ必要かを認識し、必要とされている情報を探し、評価し、効果的に使うといった、個々人に求められる一群の能力である。（中略）それは学習者が内容を習得し、研究を進め、より自律的にことを運び、自分自身の学習に対するすぐれた舵取り能力を身につけることを可能にする。」

この「必要とされている情報を探し、評価し、効果的に使う」ためにも前提として“読書力”が必要です。情報の内容を理解できなければ、情報の有用性を判断（評価）することはできないからです。

“読書力”を培う方法として、多読をおすすめします。「本を読みなさい」としつこくいわれると却って読書嫌いになるひともいると承知していますが、敢えて書かせていただきます。読書力を身につけてから、あるいは読書力を培うために図書館へ行きましょう。

[参照文献]

- 佐藤義則「大学図書館の利用者教育とアウトカム評価」『館灯』No.43，2005，pp.6-10.
- 戸田あきら・永田治樹「学生の図書館利用と学習成果：大学図書館におけるアウトカム評価に関する研究」『日本図書館情報学会誌』Vol.53，No.1，2007，pp.17-35.
- 永田治樹「大学図書館における新しい『場』：インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ」『名古屋大学附属図書館研究年報』No.7，2009，pp.3-14.

『あなたがここにいて欲しい』中村航　著

人文科学部　表現文化学科２年　冨田綾香

私は暇さえあれば図書館に行くほど図書館好きだ。本と図書館好きが高じ、図書館司書資格取得を目指している。今回は勉強に疲れたときにお勧めしたい本を紹介する。

中村航（こう）著『あなたがここにいて欲しい』は全３編の短編集。表題作「あなたがここにいて欲しい」の主人公、吉田は南足柄市出身で平凡な生活に物足りなさを感じている大学生。そんな彼も、同じゼミで岡山出身の舞子に恋をする。特に主人公と舞子がお互いの出身地の英雄である、金太郎と桃太郎はどちらが強いかを無邪気に語る場面は何とも微笑ましい。そして小学校時代、主人公が図書委員になり、親友の又野と秘密の遊びをする放課後の静かな図書室。それはまるで、そこだけ透明なドームで覆われた夢の中にいるようで、主人公は又野と友情を分かち合えたこのとき、人生最高の幸福感を味わう。この場面は私が小学生のときに図書室で友人らと楽しく過ごした思い出と図書委員だったときの記憶とも重なり、共感できるので一番好きだ。

さて、主人公の恋はどうなるのだろうか。主人公は何を見出していくのだろうか。純情な恋をする姿と友と分かち合う友情が愛おしく思える本作を就実の図書館でぜひ読んでみてほしい。

『大人になる前に身につけてほしいこと』坂東眞理子　著

人文科学部　実践英語学科２年　今田結衣

この本には、作者自身が「中学生や高校生のときには気がつかなかったけれど、いまになってみると本当はこうだったと気づいた」というまさに「大人になる前に」知っておくべき大切なことがたくさん書かれている。

読者対象は主に中学生・高校生で女性向けに書かれているが、もちろん大学生、男性が読んでもわかりやすい内容になっている。

今年二十歳を迎えるわたしは、法律の上では「大人」になる。しかし、まだその実感はなく、「大人」になるとは果たしてどういうことなのかを考えながらこの本を読んだ。

作者は「親にとっては、子どもは二十歳になっても、三十歳になっても、いつまでも未完成な『子ども』」と言っており、「大人」になるということはとても難しいようである。

この本には、すてきな「大人」になるための具体的なアドバイスがたくさん書かれている。友だちづきあいのルール、すてきな大人になる秘訣など全部で50あるアドバイスはどれも当たり前のことだが、なかにはいざ実行するとなると難しいことも含まれている。

少しずつでも実行していけば、作者の望むすてきな大人になれるだろう。

【一緒に快適空間を作ろう】

- 図書館に来る時は、必ず学生証を持参してください。
- 図書館では静かにしましょう。（３階に上がる階段の声は館内に響きます。イヤホンからの音もれにも気をつけてくださいね。）
- 携帯電話はマナーモードにしてください。
- 図書館内は飲食厳禁です。（ただし、喫茶コーナーを準備中。ご活用ください。）
- 手に取った本は元の場所に戻しましょう。（分からないときは各階の返却台に置くか、カウンターに持ってきてくださいね）

【図書館とマナーについて】

図書館には、友達と一緒に行きますか？　それとも一人ですか？　決まった時間に行きますか？　それともぶらりと立ち寄っていますか？　ひとりひとり目的は違っていますが、図書館という同じ空間で同じ時を過ごしています。だから、マナーがあるのです。

たとえば、集中して勉強をしたい人がいるのに、他の人の話し声がそれを阻んでしまうのです。その気持ちに気がつきましたか？　自分のためだけではなく、みんなのために、共に快適空間をつくっていきませんか。

お知らせ

第２回図書館セミナー・図書館で地域をまなぶ

仏像の伝えるもの　像内納入米のDNA解析結果

⁂瀬戸内市餘慶寺本尊千手観音像から納入米が発見された。この米が語るものとは？

開催日：2011年10月29日㈯
時　間：13時30分
報告者：就実大学人文科学部教授　土井通弘（美　術　史）
　　薬学部教授　中西　徹（分子生物学）
申し込みはFAX086-271-8275またはE-mailでlib@shujitsu.ac.jp

共翔　第19号
平成23年６月20日発行

編集・発行
就実大学・就実短期大学 図書館
〒703-8258　岡山市中区西川原1-5-22　TEL(086)271-8134㈹　FAX(086)271-8275
ホームページ　http://www.shujitsu.ac.jp

※館報の題字は押谷善一郎学長の書によるものです。